

2024 年度 第 1 学期試験問題および解説 社会心理学 I

担当者: 横山智哉

試験問題と採点基準

以下に、第 1 学期試験問題とその問題の正解および採点基準を示す。実際の採点では各要素を説明できていない度合いに応じて点数を低くした。

問 1

社会心理学の普遍的な考えとして、「場」理論 (Lewin, 1951) が挙げられる。そこで、人間の「行動の根本法則」を表現した数式を示したうえで、その理論を説明しなさい。その際には授業内で取り上げた例ではなく、自分で考えた具体例とともに説明すること。分量は 4 行程度を目安とする。(10 点)

1. 行動の根本法則 (計 6 点)

- $B=f(s)$ / $B=f(P, E)$ という「場」理論の公式に言及している [3 点]
- 人間の行動は人とその人を取り囲む環境の相互作用に規定される [3 点]

2. 「場」理論の具体例 (4 点)

- 具体例が「場」理論を説明する上で適した例を記述できている

問 2

低賃金で過酷な労働を強いられる、いわゆる「ブラック企業」において、従業員が愛社精神を持つといったメカニズムがなぜ生じるのか。授業内で説明した理論や実験結果に基づき説明しなさい。分量は 6 行程度を目安とする。(15 点)

1. 認知的不協和理論 (計 9 点)

- 低賃金なのに過酷な労働に従事しているという認知的不協和を、その企業に対する態度を変えることで不協和状態の解消を試みる [6 点]
- 態度と行動の不一致度が高いほど自身の行動を正当化する必要がある [3 点]

2. Festinger & Carlsmith (1959)の実験デザインと実証知見 (計 6 点)

- 役割演技の報酬金額が 20 ドルと高額の実験条件では、態度とは異なる発言をしたことの正当化ができるため認知的不協和は生じない [3 点]
- 役割演技の報酬金額が 1 ドルと少額の実験条件では、その正当化が難しいため、生じた認知的不協和を解消するために態度を変化させる [3 点]

問 3

以下の図は、授業内で紹介したアッシュの同調実験の結果の一部（Asch, 1955）である。これらの実験結果に基づき、以下の問いに答えなさい。

- (1) Asch (1955) の実験デザインは授業内で説明したとおりである。基本的にはある集団のうち 1 人だけが真の参加者で、それ以外はすべて実験者に協力するサクラであるが、サクラの行動は条件によって異なる（※の脚注を確認すること）。そこで、まず各図の結果をそれぞれ説明し、これがどのような要因の影響を明らかにしているのかを論証しなさい。次に各図の結果に基づき、人々の同調行動を規定する要因についても論証しなさい。分量は 10～15 行程度を目安とする。（25 点）

＜2 枚の図は削除した＞

出典: Asch, S. E. (1955). Opinions and social pressure. *Scientific American*, 193(5): 31-35.

1. サクラの人数が同調行動に与える効果（5 点）
 - 誤答するサクラの人数が 1 人の場合には同調は起こらないが、サクラの人数が 3 名になると同調率が最大限まで高まり、それ以上はほとんど高まらない
 2. 同意者の有無が同調行動に与える効果（5 点）
 - 1 人でも真の参加者に同じ回答をする人物がいると同調率が減り正解率が高くなるが、同意者がいない場合には正解率が下がる
 3. 同調行動を規定する要因（計 15 点）
 - 同調行動の原因はサクラの人数によるものではない [5 点]
 - 同調行動の原因は多数派の答えが一致しているという斉一性が重要で、この斉一性が保たれていると同調行動が生じる [10 点]
- (2) Asch (1955) の重要な発想は、「線分の比較」という単純な課題を採用したことにある。この「線分の比較」という課題を採用したことが、人間の同調行動を理解するためになぜ重要なのか。その理由について、Asch (1955) の実験デザインに基づき説明しなさい。分量は 6 行程度を目安とする。（15 点）
1. 同調の原因となる 2 種類の影響（計 10 点）
 - 規範的影響: 多数派の中で適切だとされる規範と合致した意見や行動を採用することで生じる影響 [5 点]
 - 情報的影響: 自分の意見や行動に確信が持てないときに多数派に依拠することで生じる影響 [5 点]
 2. 規範的影響による追従（5 点）
 - Asch (1955) の実験デザインは、観察された同調行動の原因が情報的影響ではなく、規範的影響によることを実証した

問 4

以下の記事は、2024 年 7 月 1 日の読売新聞に掲載された一部である。この記事の内容に基づき、以下の問いに答えなさい。なお、本問題は都知事選挙が実施される前に作成している。したがって、誰が当選したのかという事実を問う設問ではなく、その事実に基づき論述をする必要もないので注意すること。

<新聞記事は削除した>

出典：読売新聞（2024）. 都知事選 小池氏が先行 蓮舫氏・石丸氏追う.
読売新聞, 7 月 1 日, 1.

- (1) 本記事は、都知事選挙を対象とした情勢調査の結果を紹介している。そこで、このような選挙情勢の報道が有権者の投票行動に与える 2 種類の効果について、それぞれ説明しなさい。そのうえで、本記事の内容を踏まえて、（つまり、実際の選挙結果には言及せずに）、上記の 2 種類の効果を具体的に説明しなさい。分量は 8～10 行程度を目安とする。（20 点）
1. アナウンスメント効果（計 12 点）
- アナウンスメント効果：選挙情勢や選挙結果の予測報道が有権者の投票行動に与える影響 [2 点]
 - バンドワゴン効果：選挙に勝ちそうと報道された候補者に票が集まる [5 点]
 - アンダードッグ効果：選挙に負けそうと報道された候補者に票が集まる [5 点]
2. アナウンスメント効果に基づいた具体例（計 8 点）
- 具体例が新聞記事の内容を踏まえて、適切にバンドワゴン効果（4 点）とアンダードッグ効果（4 点）を適切に説明できている

学期末試験の講評

各設問で問われていることに正しく答えていない記述が散見されました。たとえば、問 4 では「選挙情勢の報道が人々の投票行動に与える効果」を論じる必要があります。一方で、選挙情勢の報道ではなく、それとは関係ない全く別モデルから説明する記述が多くありました。今後は、設問文で何を問われているのかを考えて回答できれば、より高い点数が期待できると思います。

最終的な成績評価を行う際には、全ての回答者の点数を考慮した上で点数調整を行いました。その際には、ある一定の範囲の中で整数の値を加算し、C 評価と F 評価の割合が最も減る値（つまり、単位を取得できない人の割合が最も減る値）を採用しました。

改訂履歴

第 1 版 2024 年 8 月 22 日

以上